シンポジウム 3：2025 年 2050 年 問題を徹底討論する

－我が国の未来予想図を描く－

演題名	在宅医療の質と量の向上を求めて

概要

近年、質･量共に、本格的な在宅医療が全国で増加しつつある。先進的な実践者の努力を観察していると、一見すると、いよいよ全国へ普及・拡大する兆しが現れているように思える。しかしながらこれはやや楽観的な見通しかも知れない。まず、全国の開業医師のうち、在宅医療を行うものの比率で見ると、普及したとは言いがたい程度の量であり、病院での取り組みも決して量的に十分ではない。

この原因を探るという作業が重要であるが、私はそもそも、日本の一般診療所の、一日あたりの患者の数が多すぎることが、在宅医療の普及を妨げている一因ではないかと考える。そしてその背景に、医療を介護や予防といった、健康維持にかかわる日常生活全般の相談にのるという作業を、医師のみ委ねすぎていることがあると考える。

しばしばヨーロッパの家庭医の先進例が紹介され、日本の開業医との差異が比較されるが、そのさい、医師を補助する（訪問）看護師、ヘルパーなどとの共同作業の差異に言及されることが少ない。

この講演では、医療保険、介護保険にとどまらず、地域における健康推進事業なども含めた医師を取り巻く諸活動との連携の可能性を、経済的な側面、医療的な側面、生活支援的な側面などから検討してみたい。

もちろん筆者は経済学を専門とするので、医療費･介護費などの見通しとも関連させた議論を行いたい。